「白老文化芸術共創 －ROOTS&ARTS SHIRAOI－」

文化庁など主催　「アーティスト・イン・レジデンス」「シルキオプロジェクト」

10月15日～11月7日の期間、アーティストが白老の自然や文化をモチーフに、町内6会場で開催した作品展を写真で紹介します。

磯崎道佳さん（ニセコ町）
『森の入り口、森の出口、あるいは どちらでもない』

白老の川からの眺めは、人と山のシンプルで濃密の関係を見せてくれます。イメージを膨らませ、建物内をまるごと作品化しました。

大町

社台

吉田みなみさん（蘭越町）
『樽前の人･Mt.Tarumae of People』

白老町から見える活火山、樽前の姿を見て、力の限りを出して生きる日本の人々の強さを思い出しました。女性３人をモデルに、人が持つ普遍的な美しさを彫刻で表現しました。

文化＋観光のまちづくりを目指す 白老文化観光推進実行委の初開催事業

文月悠光さん（東京都）　『声の余白』

白老を代表する歌人・満岡照子。白老を訪ね、照子の短歌が持つ普遍性をすくい取り、2021年の人々に向け、詩を新たに書き下ろしました。詩の朗読と映像を併せて展示し、空間と時間の広がりを提示しました。

本町

大町

相川みつぐさん（札幌市）　『盗まれた文字』

満岡伸一の著作に残る「義経伝説」の一つに着想を得、そこで起きた重大な事件をアイヌ文様の線と重ね合わせた絵柄を作り、その模様を着物や壁に表現しました。

第一歩は町内６会場を周遊する展覧会

森迫暁夫さん（札幌市）
『～地図。大なり小なり』

シルクスクリーンという版画技法で制作しています。動植物やアイヌ民族の祭具、建物など、10年以上になる白老との付き合いの中で触発された小さなかけらの心象風景で埋め尽くしました。

大町

石山

大西洋さん（岩見沢市）　『「炭となる素」つながりと距離　その2』

「炭素」を意識した作品をキャンプ場の木々に展示。墨汁で草木染めした布を巻きつけました。全てのつながりと距離を改めて捉え直したいと考えました。

※コメントは同展周知のフライヤーなどからの抜粋